

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市大野田児童館
2 指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和6年度 37,456人(前年度比 107.4%) ・令和5年度 34,872人 ・令和4年度 32,996人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 77,525千円 (64,989千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した丁寧な育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有し、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）による自己評価》
令和6年度は、「元気な心と優しさで笑顔あふれる大野田児童館」をスローガンに掲げ、子ども主体の児童館運営に努めました。 【児童健全育成事業】 よく遊びに来館する小・中学生と児童館の利用について話し合い、毎週土曜日に「カードゲームDAY」設けました。中学生のアンケート結果から必要な居場所作りを話し合い・考え提案し、「館まつり」ではボランティア中学生たちの活動の幅を広げることができました。 【子育て家庭支援事業】 転出入が多い地域特性を踏まえ、情報交換の場を設けたり、「あおぞら児童館」をおこないました。お子さんの発達や、子育てに悩む母たちのために、たんぼぼホームと共催し「ペアレントプログラム」や「たんぼぼDAY」を開催して、子育てに関する様々な相談ができ、子育てする保護者同士の関係作りもできました。「未就学児のための館まつり」を盛大に開催し、児童館の魅力を発信しました。 【地域交流推進事業】 高学年児童が作成した防犯マップを地域懇談会で子どもたちが発表し、子ども目線から防犯について考える機会を設け交流しました。体育振興会と共催し、小学校校庭で毎月第三土曜日にモルック練習会を定着し、3月にはニュースポーツ交流会を開催し地域の老若男女問わず楽しく活動することができました。 【放課後児童健全育成事業】 クリーン作戦・芥川清掃とみんなで地域清掃し街をきれいにする心を育みました。館まつりでは、「クリスマス」をテーマに、高学年の子どもたちが積極的に活動し盛り上げてくれました。毎日の活動の中にだれでも楽しく身体を使って遊ぶJUMP-JAM運動遊びプログラムを導入、またボッチャ等のニュースポーツを取り入れ、異学年交流を図りました。勝ち負けを決めるのではなく、仲間と楽しく運動遊びができるよう支援しました。様々な活動の際には、子どもの主体性を大切にし、職員は個々に寄り添った支援をしました。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、学区内の中学校全生徒にアンケートを実施して中高生タイムを設け、いつでも利用できるような部屋を用意したり、近隣公園を利用していた小学生高学年児童の意見から「カードゲームの時間」を設けた。子ども達の様々な意見を反映させながら、地域における仲間作りや居場所作りに積極的に取り組み、自由来館の利用につながった。 子育て家庭支援事業においては、子どもの年齢に合わせて乳幼児向けの親子プログラムを実施している。親子ふれあい遊びや季節の工作、感触遊びなどの多彩な内容の遊びを提供しており、保護者同士の交流の場になっている。また、転出入家庭の多い地域であるため「うえるかむ大野田」を実施したり、近隣公園での「あおぞら児童館」、地域の「未就学児のための児童館まつり」などを開催して多くの親子が参加した。乳幼児親子が児童館を身近に感じられるような広報活動を行い、利用しやすい環境作りに努めている。 地域交流推進事業においては、老人福祉センターで活躍する方々の指導を受けて七夕飾り作りや卓球を行ったり、民生委員と一緒に近隣公園の環境美化活動「クリーン作戦」を実施するなど地域交流や世代間交流を図りながら、子ども達が様々な活動を通して自主性や自己肯定感を育む機会としている。 放課後児童健全育成事業においては、遊びや生活の中で高学年の子ども達が自主的にサポーターとして活躍し、異年齢による集団活動を通して社会性や自主性を育んでいる。また、運動遊びや工作、昔遊びなど様々な遊びを経験できるよう工夫をし、子ども達の豊かな感性や興味関心を広げられるような環境作りに努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子ども若者局子ども若者支援部児童クラブ事業推進課